平成１３年度当初予算　基本事務事業目的評価表

[基本事務事業名]　（５０１）　青少年の社会参加活動の促進事業
[評価年月日]　平成１２年１０月１６日
[主担当部課名]　生活部　青少年・私学課
[記入課名・課長名・電話]　青少年・私学課　課長　植田十志夫　224-2405

1　総合計画の政策体系上の位置づけ
政策：（Ｉ－２）人づくりの推進
施策：（　３　）青少年の健全育成
総合計画の目標項目：①少年の主張参加中学校率　②地域リーダー養成事業参加者数（累計）
③青少年の交流の場づくり
波及効果・副次的効果を及ぼすと考えられる施策：生涯学習の推進、市民活動の充実、家庭地域における教育の充実

2　基本事務事業を巡る環境変化（過去、現状、将来）

都市化、核家族化等の進展により、子どもたちの周りから様々な関わりが希薄となり、コミュニケーションや直接体験が不足し、日常生活の中でうまく自己主張ができず、自分の居場所や存在感を持てない子どもたちが増え、突発的に凶悪犯罪を起こしてきている。

また、近年、社会全体の生き方等に対する価値観は多様化してきており、ボランティア活動やＮＰＯ活動はますます社会的に評価されるとともに期待される方向にあり、社会体験や自然体験等を通じて規範意識や集団協調性、創造力が育まれると考えられる。

3　基本事務事業の目的と成果
3-(1)　対象と意図（何をどういう状態にしたいのか）

青少年及びそれを取り巻く大人に対して、青少年が自己主張したり、自分とは異なった様々な価値観に触れる機会を提供する交流の場づくりや青少年団体のネットワーク化の環境づくりをすることによって、青少年の社会参加活動を活性化する。

3-(2)　成果指標名・成果指標式（総合計画の目標項目には＊を付す）

指標名：青少年社会活動参加度
指標式：社会参加活動青少年数／全青少年数
②　変更した場合の成果指標名・成果指標式
指標名：青少年の交流度
指標式：青少年の交流の場への参加者数／県内青少年数

3-(3)　設定した成果指標に関する説明（指標動向に影響する要因、指標の有用性、設定の理由など）

青少年の社会参加活動の促進を検証するデーター把握は難しく、そのため青少年の居場所として開設する「青少年交流ゾーン」の利用者や少年の主張三重県大会に参加する青少年数をもって、青少年の社会活動の活性化を計ろうとするものである。

3-(4)　結果（施策における 2010 年度の目標）

青少年のさまざまなボランティア活動体験率　40～100%

4　基本事務事業の評価

4-(1)　前年度（H1 1 年度）における基本事務事業の結果評価

①前年度に行った内容と成果

青少年の社会参加を促進するために、中学生を対象に主張作文の募集、発表大会を開した。また、大会においては、地元中学生がスタッフとして参加し、ボランティア活動の体験による充実感が得られた。一方、マスコミを通じて県民からは、事業に対する理解と良い評価を得ている。

②前年度に残った課題

ア　青少年の社会参加活動を促進させるための意識啓発が不十分であった。（少年の主張三重県大会への応募作品数が減少した。）

イ　青少年団体の交流事業が軌道に乗るまでに至らなかった。

ウ　青少年の社会参加活動の事業展開は、生活している身近な地域や市町村の役割が大きいと判断されるため、県が果たすべき役割とその方策を明らかにする必要がある。

4-(2)　本年度（H1 2 年度）における基本事務事業の見込み評価

①本年度行っている内容と本年度終了時に見込まれる成果

高校生、大学生及び青年有志による青少年の居場所となるラジオ番組の放送を開始し、あわせて津駅前ビル内の青少年の交流ゾーンの整備により交流の場が用意される。

②本年度残ると思われる課題

ア　少年の主張作文募集が、中学校での取り組みに頼っているため、参加中学校や応募作品数に停滞感が見られることから、将来的に生活に身近な地域や市町村で活動する市町村民会議の同種の取り組みと連携し、社会参加活動としての少年の主張事業を活性化する必要がある。

イ　青少年のためのラジオ番組放送については、放送を継続させ青少年に番組の定着を図り、ラジオの特性を活かした社会参加活動を促進する必要がある。一方、番組制作に携わるボランティア青少年の制作活動の負担が過重となっている現状を鑑み、番組組の質を低下させずに負担解消を図る協議を実行委員会と進める必要がある。

ウ　津駅前再開発ビル内に整備された青少年の交流ゾーンについては、より交流が促進され社会参加活動促進の基地となるような仕組み、取り組みの検討が必要である。

5　基本事務事業の改革方向

青少年の社会参加活動の促進は、県がマスメディアを活用するなどして広域的な青少年のネットワークの構築や居場所づくりの取り組みを企画していく必要がある。

6　成果指標値及びコスト等の推移

	成果指標値		総合計画 目標数値	予算額等（千円） 所要時間（時間）	必要概算 コスト（千円）
	目　標	実　績			
前々年度 （H10年度）			①　17% ②　31人 ③　0ヶ所	4，073 2，020	12，517
前年度 （H11年度）			①　18% ②　31人 ③　0ヶ所	3，921 2，000	12，332
本年度 （H12年度）			① ②　31人 ③　1ヶ所	11，478 4，000	28，078
本年度補正後 （H12年度）				＋（or▲） ＋（or▲）	＋（or▲）
翌年度 （H13年度）		―――	①　50% ②　31人 ③　1ヶ所	23，164 6，080	48，640
計画目標年次 （H13年度）		―――	①　50% ②　100人 ③　1ヶ所	―――	―――

7　翌年度（H13 年度）の基本事務事業における事務事業戦略プランシート(PPM : Project Portfolio Matrix)

＜必要概算コスト：　☆５億円以上　　◎～１億円　　◇～５千万　　△～１千万　　・１千万未満　　＊休止・廃止＞

※　各事務事業名の右に付した矢印は、それぞれの事務事業に対する力の入れ具合である「注力」の変化の方向を表している。

８　基本事務事業を構成する事務事業の詳細

※　新規事務事業には、事務事業名に（新）を付す

事務事業名 （担当課）	意図の指標名	事務事業の概要	13年度 予算額 （千円）	予算額 前年度比 （±千円）	13年度 所要時間 （時間）	所要時間 前年度比 （±時間）
少年の主張三重県大会費 （青少年・私学課）	中学生の社会認識度	中学生に社会の一員としての自覚と行動を促すため、作文の募集を行い、発表大会を開催する。 また、広く県民に内容を知らせることにより、青少年健全育成に対する理解を図る。	4,174	+205	2,000	0
青少年健全育成ビジョン推進事業費 （青少年・私学課）	ラジオ番組参加率	ＦＭラジオ番組の制作・放送等を核にして、青少年の居場所づくりやネットワークの構築を推進する。 また、青少年からの意見や政策提言を施策に反映する。	7,405	― 104	2,000	0
中学生インターンシップ事業	インターンシップ実施率	地域と学校が連携して、一定期間、中学生に地域の職場で体験活動をさせることで、中学生は地域の大人から職業観や人生観等を学び、地域の大人は中学生の実像を正しく把握し、地域における大人と青少年の適切な関係を保つとともに、地域の子どもは地域で育てる気運が高まる。	11,585	+11,585	2,080	+2,080